



相模中学校だより 12月号

令和4年12月20日 発行：校長 金子憲勝
(日頃の学校の様子は、学校ホームページに掲載しています)

今週の金曜日が、2学期の終業式です。この学期は、9月15日に相模祭をハーモニーホール座間の大ホールで実施することができ、10月22日には体育祭を曇り空のもと予定通り実施することができました。また、先週の土曜日には3年ぶりの青少年フェスティバルも実施することができ、小学生や中学生が多数参加し、盛り上がりました。

保護者の皆様や地域の皆様のご協力やご支援のお陰で、感染症対策を行いながらも様々な行事を実施できたので、皆様誠にありがとうございました。

今回の相模中学校だよりには、1・2年生が総合的な学習で取り組んだ福祉体験と職業講話を終えての感想文を掲載しました。生徒は、日頃接することの少ない立場の方々からの話を聴き、多くのことを学ぶことができたようです。また、来校してくださった方々からは、「相模中学校の生徒さんは、話をしっかり聴くことができ、良いですね。」や「生徒さんが落ち着いているので、とても話しやすかったです。」等のお褒めの言葉を1・2年生ともに沢山いただきました。時間を作って来校くださった講師の方々には心より感謝申し上げます。

福祉体験を終えて 1年生の感想①

この体験をする前は、車イスの人を道などで見かけても話しかけず、ただただ道をあけるということしかやっていませんでした。けれども、福祉体験を受けて、車イスに乗っている人は常に不安な気持ちでいることや、特に段差や障害物などをよける時がこわいことが分かりました。また、段差は一人で登れないことなどを学びました。それなので、これからは道などで車イスの人にあつたならば、勇気を出して優しく声をかけ、車イスに乗っている人の役に少しでも立てるように頑張りたいです。

職業講話を終えて 2年生の感想①

様々な職業の説明を聞いて、どの職業にも違った魅力ややりがいがあることが分かり、短い時間でしたが多くの知識を得ることができました。12個の職業で共通することは、どの職業も私たちの生活を支え、豊かにしてくれる大切な仕事であるということです。それぞれに大変な部分はあるけれど、課題を解決するために働き、やりがいを感じられる。そのことが、頑張る力になるということが分かりました。また、今学校生活で頑張っていることは、思いがけないところでつながることもあるので、今のうちにどんな分野のことも全力で頑張りたいと思います。

福祉体験を終えて 1年生の感想②

実際に大変な思いをしている人の話を聴くと、その人たちのために何かやってあげたい気持ちになりました。白杖や点字ブロックはすごく大切なものなので、杖にぶつかったり、さわったり、点字ブロックの上をいすわったりしないで、通行の妨げになることをしないよう意識することを学びました。すごくためになる話を聴くことができ、良かったです。街中で困っている人がいたら何か手伝い、助けてあげたいです。

職業講話を終えて 2年生の感想②

私は、まだ夢がなく、何になりたいともなかつたので、この職業講話の発表を機会に、少し自分は何に興味があるのかについて考えるきっかけができました。そして、今後の生活に役立てていきたいと思いました。私の夢は、夢を見つけることが夢なので、今後機会があつたならば、職業について調べてみたいです。

福祉体験を終えて 1年生の感想③

私はまだ高齢者ではないので、高齢者の気持ちが分からないけれども、実際に重いゴーグルや杖を使って歩くと身体は重いし、関節もうまく曲げることができずとても大変でした。私は、この経験を忘れずに高齢者への接し方を考え直し、高齢者の大変な気持ちを理解していきたいと思いました。

職業講話を終えて 2年生の感想③

話を聴いて印象に残ったのが、何かを全力でやり続けることだったので、そこを意識して生活したいです。例えば、私は1年程前から習い始めた習い事があります。好きなことだったので、苦しくはないのですが、時には練習を先延ばしにしてしまうこともありました。ですが、パティシエの飯田さんの話を聴いて、もっと全力で頑張ってみようと思いました。

《福祉体験と職業講話の写真とイラスト》

